

ほっこりだより

東向日キリスト教会

京都府向日市森本町下森本6-5

Tel: 075 (931) 5934

http://www.h-mukou-ch.jp/

第58号 2011年9月4日 発行

最後まであきらめない

なでしこジャパンで興奮

サッカー女子W杯でアメリカチームを破り優勝。世界一になり、日本中の明るい話題となりました。そして八月に団体に初めての国民栄誉賞が贈られ、日本の歴史にその名を残す事になりました。

この快挙の裏で選手達が恵まれない環境の中で日頃のたゆまぬ努力と世界の頂点を目指すあきらめない気持ちが開花したのです。また、



決勝戦で何度も劣勢に立たされましたが、必ずチャンスが来ることを信じてひたすらに戦ったことが勝因でしょう。私達もあきらめない気持ちをいただき、励まされました。

あきらめなかったヨセフという人物。

旧約聖書に登場するヨセフは、異母兄弟十二人の中で育ちます。年寄り子のヨセフを父が偏愛します。兄弟の中で憎まれ、だまされた上、エジプトの商人に売られてしまいます。イケメンだったヨセフは、主人の奥さんに誘惑されそうになりますが、危つく逃げます。しかし、主人から誤解され、投獄されます。

そこで、同じ囚人仲間の夢の謎を解き、助けるのですが、助けられた仲間はヨセフを忘れてしまいます。ある時、その国の王様が夢

を見ますが、誰も夢の謎を解けません。その時、以前に助けられた囚人の一人がヨセフを思い出し、王に進言します。

ヨセフは見事、王の夢を解き、囚人から一躍、王の側近として取り立てられます。神はヨセフを用いて、国を大飢饉の災難から救います。やがて、ヨセフを騙した兄弟達が遠方から食料を分けて貰おうと訪ねてきました。ヨセフは憎しみを超えて兄弟達を迎え入れ幸いな生涯を全うしたのでです。

あきらめない人生に、神の栄冠が…

ヨセフは苦境の中で自暴自棄にならず、希望を持って忍耐しました。それが出来たのは彼の信じる神がどのような時にも、共におられることを忘れなかったからです。

「四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれていますが、行き詰まることはありません。」聖書

どのような時にも、希望を失うことはないと教えています。スポーツに限らず、可能性が残されているなら、あきらめずに努力し、求め続けることではないでしょうか。

ヨセフの信じた神は、サッカーだけの神ではなく、すべての人の神です。あきらめずに真の目標を目指すなら、あなたが人生の勝利者となるのです。

「キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目指して一心に走っているのです。」聖書

教会案内図です



俳句

夕虹や湯かげんみてる間に溶けし
アパートの皆出て来る花火かな
古都葉

短歌

蝉しぐれ眠気まなこを呼び覚ます
あじさいや雨だれ落ちて虹のごとし
Y・Y子

走り出す汽車を見送り立ちつくす
乗ればよかったこれで良かった
十七の誕生日に香水を
香るレディースになってほしくて
誰一人見ていなければ道端の
四ツ葉さがして半日いたい
古都葉

NHK大河ドラマ・新島八重とは

再来年のNHK大河ドラマ「八重の桜」は新島襄の妻、八重を主人公にしたドラマと聞いています。東北の被災地を励ます意味も含まれているようです。

旧姓山本八重の生涯は波乱に飛んだものでした。一八六八年の戊辰戦争で旧幕府派の会津城を守るため、刀を腰に銃を持って勇猛果敢に戦いました。敗れましたが、会津のシャランヌ・タルクと呼ばれるほどの活躍だったそうです。

しかし、その八重が京都に来て新島襄と出会うことになったのは、すでに京都府の顧問として働いていた兄の山本覚馬の導きでした。覚馬はある時、宣教師のゴードンと出会い、キリスト教信仰に目覚めていました。

八重は兄を頼って京都に来た時、ゴードン家の世話になります。そこで聖書に触れ、やがてクリスチャンとなります。戦いに敗れた後、八重の心の空白を埋めてくれるものは、聖書の真理以外にはなかったでしょう。

一方、新島襄は一八七五年に覚馬の働きで、キリスト教主義の学校である同志社を建てました。覚馬の紹介でやがて、新島襄と八重は結婚します。一八七六年（明治九）のことでした。この時、新島襄三十二歳、八重三十歳でした。明治維新後、間もない時でしたが、キリストの信仰をいただいた人たちが、多くの人々のために、聖書を教え、福音

を伝えたのです。神の深いご計画を覚えすにはおられませんが。

新島襄は、四十七歳で若くして亡くなります。しかし、八重は新たな仕事に向います。まず、従軍看護婦として、日清戦争で活躍し、戦後、一般女性として初の叙勲を受けます。それは、女性の社会進出を社会に認めさせる第一歩となりました。

また、茶道にも挑戦し、師範の地位までのぼり、自宅に茶室を設け、そこには、「寂中庵」と名前がありました。寂とは、どんな時にも動じない心の意味です。八重の生涯はどんな場面でも、挑戦し、前に向かって進むあきらめない心は、聖書の教えから得たものではないでしょうか。

ちよっとほっこりする話

「ほんまにおいしおしたなあー」
と、そっと箸を置くあなた。

思わず私達も

「ほんまどすなあー」

と、にわか京都弁で答える。

ひとときの交わりの時、決して

豊かではない食卓。その満面の笑みは、
何よりのご馳走です。

イベントのご案内

9月15日（木）10時半より
「敬老の集い」近くで会食。
実費負担となります。

10月16日（日）午後1時より
楽しい教会バザー。

12月10日（土）午後6時半より、「京都クリスマス会」
京都教育文化センターにて。



そんなあなたにいつも
元氣付けられます。
その手のぬくもりと
笑顔は私達の誇りです。

A子

若くして夫に先立たれ、女手一つで
子供を育てながら、この京の都で九十五年。
しとやかで、しなやかで……凛とした
美しさはどんな花にも負けません。